

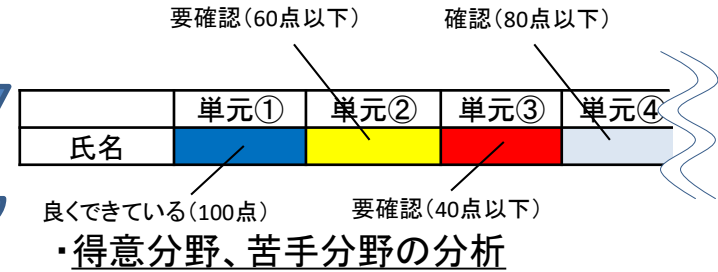
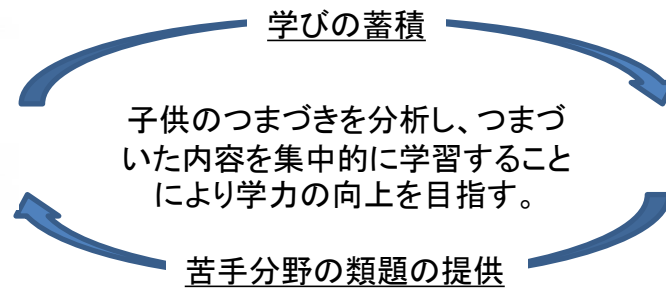
サマースクールの実施

＜サマースクール＞

- 夏季休業中を活用し、町主催で長期間にわたり学習機会を提供する。
- 民間と提携し、タブレット等を用いた教科学習を推進。
- ICT機器を活用して学習することによって、自己の学びを蓄積することができ、得意分野、苦手分野をデータとして把握することができる。苦手分野とされた箇所を集中的に学習しそれを克服することで、効率よく効果的に学力を進めることができる。

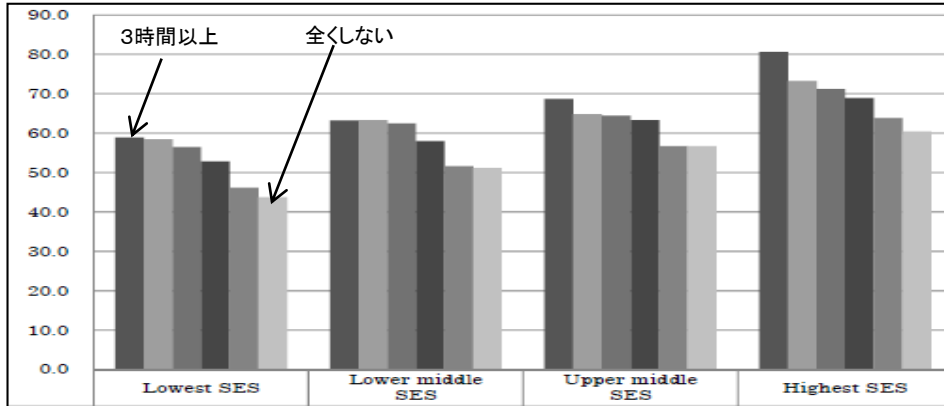
資料No.4

(実施のイメージ)



学習状況を教員も把握することにより、授業改善など日々の指導に役立てることもできる。

○社会経済的背景別、学習時間と国語A正答率の平均値(小6)



最も低い社会経済的背景の生徒は「3時間以上」勉強しても、最も高い社会経済的背景グループの生徒が全く勉強していない場合の正答率を平均値で追い抜くことができない。(他教科も同様の傾向)

経済格差が学力格差に直結しており、経済格差に関わらず受けることのできる「公」の教育施策の展開が非常に重要。

(出典)「平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」(国立大学法人お茶の水女子大学)

実施

平成28年度

平成29年度

平成30年度

平成31年度

放課後児童クラブの拡充

<放課後児童クラブの拡充>

- 昼間仕事などで保護者が家庭にいない小学校1年生から6年生までを対象として、宿題をしたり、おやつを食べたりして、異学年の友達と関わりながら生活する場所を提供。

(今後の方向性)「授業日の平準化」の実施にともない、放課後児童クラブを拡充する。

入所基準の緩和

(緩和案)

家庭外就労の場合: 父母が放課後児童クラブ開所時間中に就労していること。

自営業又は家庭内就労の場合: 父母が放課後児童クラブ開所時間中に労働実態があること。

農業: 父母が専業農家又は第1種兼業農家であること。

拡充

入所ニーズの調査(実施済)

ニーズに応じた活動場所の確保(新設等)



(放課後児童クラブ)

引き続き実施

引き続き実施

引き続き実施

引き続き実施

※入所基準の緩和については、「授業日の平準化」の実施時期等を踏まえ、可能な限り早期に実施。

平成28年度

平成29年度

平成30年度

平成31年度